

グルマーイの言葉についての瞑想

マハーシヴァトリー

イーシャ・サーデサイ

「ダルシャンを予約する」

グルマーイはサツァングで、7歳の子どもの話を聞かせてくれました。その子はセーヴァーをささげるために来た両親と共に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを訪れていました。彼女は来てすぐに両親に尋ねました。「グルマーイのダルシャンは予約したの？」

グルマーイがこの話を振り返った時、私たちは皆、彼女と一緒に笑いました。グルマーイは、「私もその話を楽しく聞きました。私たちは間違いなく、全く新しい世界に生きています」と言いました。

そして彼女は言いました。「なぜだめなのですか、そうでしょう？ 予約してしまいなさい。ダルシャンはいつでも起こり得るのですから。なぜ予約しないのですか？」

グルマーイとのサツァングで私によく起こることなのですが、いっぺんに複数の考えが浮かびました。さまざまな感情、色、そしてイメージ。その小さな女の子のダルシャンを受けたいという願いに胸が温まりました。彼女の表現の仕方に笑ってしまいました。そして何よりも、グルマーイの返答に心を打たれました——「なぜだめなのですか？」

その子が言ったことは、確かに面白くて、かわいらしく、好感を抱かせるものでした。同時に、グルマーイはその子に完全な理解で応えていると感じました。グルマーイはその子の切望を認め、最大限の配慮と誠意でその切望を受け止めていると感じました。

この子どもが7歳だということは、特筆に値します。彼女の人生全体が、効率と利便性を重視する高度にデジタル化された世界の中で展開してきました。グルマーイが表現したように、「全く新しい世界」。指を数回タップするだけで、欲しい物のほとんどが手に入る世界。この視点から見ると、その女の子の言葉の選択は全く論理的です。彼女は、自分が慣れ親しんだボキャブラリー——身近な大人たちから聞いてきた言葉——を使って、自分が望むものを明確に表現し、手に入れようとしていたのです。

しかし、これは興味深い疑問を提起します。彼女が望んでいたのは一体何だったのでしょか？ マハーシヴァラトリーの数日後、私はグルマーイと話し、サツツァングの特にこの瞬間が私にとってどれほど楽しいものだったかを伝えました。グルマーイは、この子どもがその願いを言った時、彼女はまだグルマーイのダルシヤンを受け取ったことはなかったと教えてくれました。それは彼女がそれまでに体験したことのないものでした。両親から直接のダルシヤンを受けることについて聞いたことはあったかもしれませんが、彼女自身は物理的にグルの面前にいて、参考になる情報は何も持っていませんでした。

それでもなぜか、彼女は自分がダルシヤンを欲していることを「分かって」いたのです。では、ダルシヤンとは彼女にとって何を意味したのでしょうか？ グルマーイのダルシヤンを受け取ることが彼女にとってなぜそれほど重要だったのでしょうか？ ダルシヤンとはどのようなものだとして彼女は想像していたのでしょうか？ グルマーイと共にいるとは、グルマーイと話すとは、どんな感じだと想像していたのでしょうか？ グルの面前にいたことがもたらす変容の力について、彼女は無意識のうちにも、何を理解していたのでしょうか？ 彼女は7年間——彼女にとっては一生分——かけて、自分の切望を育んできました。彼女はダルシヤンについて、どのような直感的な理解をすでに持っていたのでしょうか？

特に幼い子どもたちは神に近いとグルマーイが語るのを以前聞いたことがあります。これは彼らが、彼らや私たち皆が来たその源からまだそれほど遠く離れていないことを意味すると、私は理解しました。恐らく、この女の子のダルシヤンへの切望——ある意味で彼女にとって未知の体験への切望——には、生来の認識があったのでしょか。それは例えば、雄大で荘厳な山の前に立った時、あるいは銀青

色の滝の流れを仰ぎ見る時に私たちが抱くような、ある種の認識です。炎の舞いによってかき立てられるような認識、あるいは海と空の広大さによって心の中に開かれるような認識です。それは一体性の認識、帰着の認識、そして私たちが常に属してきたものとの邂逅(かいこう)の認識です。

この子どもが使った booked(予約した)とダルシャンという二つの言葉は、特にこの背景を踏まえて考えてみると興味深いものです。もちろん、この二つの言葉を組み合わせるといって彼女の本当に愛らしい選択に、私も皆さんと一緒に笑いました。なんて発想でしょう。まるで何かもっと日常的なものを予約するように、ダルシャンを「予約」できるなんて。ダルシャンのように貴重で崇高なものを「オンデマンド」で受けられるなんて。

しかし、先ほども述べたように、グルマーイは「なぜだめなのですか」と返答しました。彼女は、この少女の考えに大きな信任を与えたのです。私は思わず考え込みました。そして、同じ疑問を自分に投げ掛けました。「なぜだめなのだろうか？なぜ私たちは望む時にダルシャンを受けられるように心掛けることが『できない』のだろうか？」

さて、グルマーイの対面でのダルシャンを「予約」することはできないかもしれません。物理的にグルの面前にいるということは、そういうふうには機能しません。しかし、ダルシャンそのもの、つまり精神修行としてのダルシャンは、それが「あり得る」ことです。実際、そういうことなのです。グルマーイは、ダルシャンは心の中で起こると教えています。私たちは、まさに今、ここで、グルの輝きに満ちた存在を体験できるのです。この体験を得るために、どこかへ行く必要はありません。

グルマーイがサツァングで何度も歌ってきた詩聖カビールによる美しいバジャンがあります。それはまさにこのテーマについてのものです。バジャンの中で、カビール・サーヒブは神とグルの視点から語ります。彼はこう言います。

おお、私の愛しい人よ、あなたはどこで私を探しているのか。

私はあなたと共にいる。あなたのそばにいる。あなたの心の中にいる¹

詩聖はバジャンの後半でこの点を詳述し、「彼」は実際には寺院やモスク、聖なる都市、聖なる山にも住んでいないと説明しています。巡礼地にも住んでいません。正しくは、信仰の中、そして自らの心の中で出会うべき存在なのです。

マハーシヴァトリーのサツァングの間、私たちはこの英知を実践していると感じました。先日書いたように、マントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤは、シヴァ神の一つの姿です。マントラをチャンティングすることで、私たちは実際に神のダルシャンを受けていたのです。私たちは偉大なる神マハーデーヴァの面前にいました。私たちは原初のグルであるアーディ・グルの前に来たのです。そして、神、グル、そして大いなる自己は一体であるという体験に自分自身を開いていたのです。

シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで皆さんのコメントを読むのが大好きな理由はたくさんありますが、その一つは、皆さんが世界のどこにしようとグルの存在をどのように感じているかについて、たびたびシェアしてくださることです。最近、スイスのコノルフィンゲン在住のシッダ・ヨーギが、この「グルマーイの言葉についての瞑想」シリーズの序文を読んで、このように共有してくれました。

グルマーイとのマハーシヴァトリーのサツァングから数日後、グルの外側の姿と共にいたいと次第に募る切望に私はうろたえ、グルマーイの面前に実際にいるのはどんなに素晴らしいことだろうかと想像しました。今日、「シュリー・グル・ギター」を朗唱した後…グルマーイが私の心の中に、神と私自身の至高なる自己と一体となって存在していることに気付きました。グルマーイがこれ以上私に近づくなどあり得ません！

このシッダ・ヨーギが共有してくれた理解は、靈感に満ち、かつ人を奮い立たせるものです。それは私にこう問い掛けます。「グルマーイの存在は常に心の中で体験できるというこの理解、この触媒作用をもたらすような知識をもって、私は——私たちは——何をすべきなのだろうか？」

7歳の子どもの言った言葉、彼女の印象的な表現に秘められた無意識の知恵に立ち返りましょう。彼女は「ダルシャンを予約する」ことについて話しました。それは

つまり、スケジュールにそれを組み込むこと、神聖な存在とのある種の約束を交わすことです。何かを予約するには意図が必要です。事前の熟考と計画が必要です。確かに(私自身の体験からも言えることですが)シッダ・ヨーガの道では、必ずしも予期していなくても、心の中でグルの存在に出会うことがあります。私たちの周りの空気が突然光に染まり、内側に聞こえる歌と共にさざめくのです。

しかし、もっと意識的に、そして定期的にダルシヤンを体験するという選択をすることもできます。よく知られたような天の光が私たちを照らしてくれるのを待つ必要はありません。私たちから率先して行動できるのです。毎日、グルと共に過ごす時間を設けて、心の中でグルのダルシヤンを受けることを選べます。それを定期的な予定にできるのです！ 私たちがカレンダーに埋め尽くす予定やイベントの数々を考えてみてください。ダルシヤンをなぜその一つにしないのですか？ なぜダルシヤンを、最も特別で、最も大切な予定にしないのですか？

昨年、私たちは人生の本質、そしてその軌跡も、時間の使い方によって決定付けられることを考察しました。私たちは皆、日々の義務や、個人的、仕事上の責務を果たさなければなりません。同時に、私たちは既存の生活のルーティンの中でも、吉兆を増幅させる時間の使い方を決断することができるのです。

以上を述べた上で、皆さんにお聞きします。グルマーイのダルシヤンを受けたいと思い、自分自身のために「ダルシヤンを予約したい」と願う時、ダルシヤンはあなたにとって何を意味しますか？ ダルシヤンが特定の成果をもたらすことを期待しますか？ それとも、ダルシヤンの魔法が自然に現れるままに任せますか？



© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹ *Moko kahan tu dhundhe bande*; English translation © 2026 SYDA Foundation®.